

里地里山保全再生モデル事業について

平成19年4月26日

環境省 自然環境局 自然環境計画課

環境省による里地里山保全再生モデル事業の実施について

- ・ 里地里山は、長い歴史の中で農林業等を通じて特有の環境が形成されてきた地域であり、国土の中での生物多様性保全を考える上で重要な地域であるが、農林業の低迷や地域の過疎化・高齢化によって、その維持管理が困難となる一方で、特に都市住民を中心に身近な自然としての期待の高まり。
- ・ 環境省では、里地里山の保全活用に向けた実践的手法や体制等について検討するため、平成16年度から平成20年度の予定で里地里山保全再生モデル事業を実施。関係各省の協力を得て、国、地元自治体、地域住民や都市住民及びNPO等が連携した取組をモデル的に支援。

事業概要

全国の里地里山の代表的なタイプとして、4地域（5地区）を選定し、モデル事業を実施。

年 度	H 1 6	H 1 7	H 1 8	H 1 9
予算額 (千円)	79,360	72,514	63,904	48,084

地域戦略の策定（平成16年度～平成18年度）
関係省庁（農水省、国交省）、地元自治体、NPO、住民、専門家などと連携・協力し、懇談会・意見交換会を通じて、里地里山保全再生のための「地域戦略」を策定

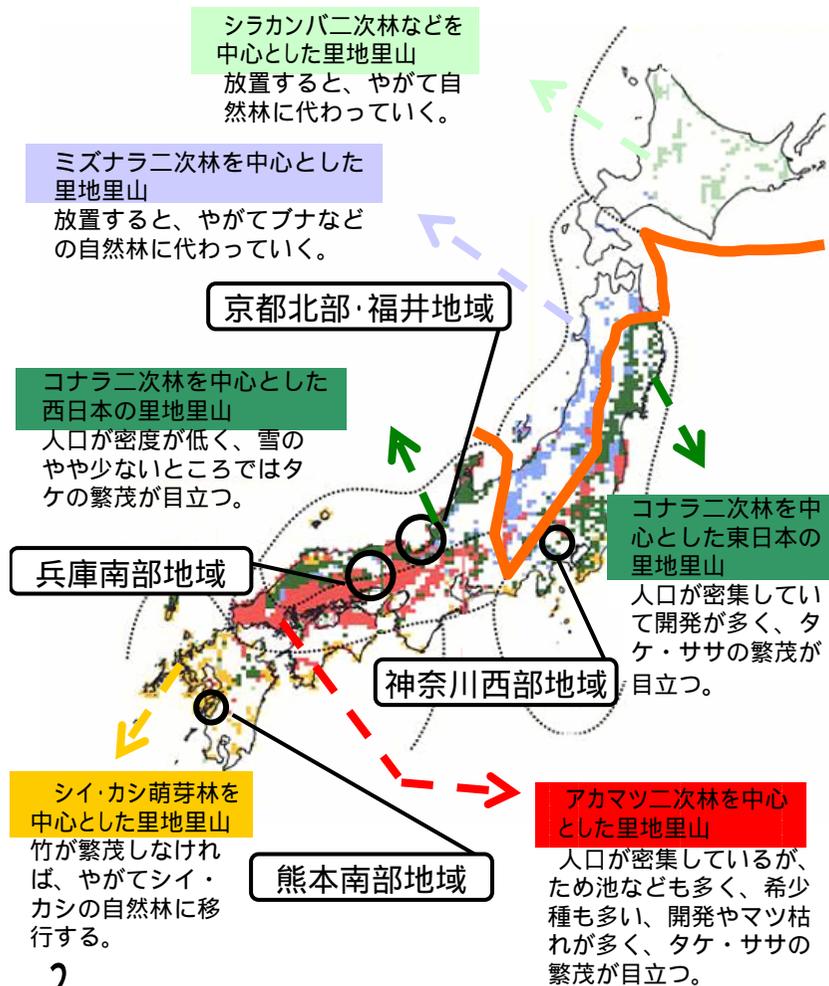
モデル事業の実施（平成16年度～平成18年度）
「地域戦略」に基づき、地域において、里地里山の保全活動を行い、持続的取り組みに向けた、課題等の検討

情報発信（平成19年度～平成20年度）
モデル地域での取組を全国へ情報発信することにより、全国の里地里山保全再生活動の活性化を図る

里地里山保全再生モデル事業実施地区

- ・ 里地里山の中核をなす2次林に着目して全国を6つのブロックに分類。
- ・ このうち、植生変化の進行に伴う希少種の生息環境の保全やササ・タケ繁茂への対応などの点で里地里山管理の必要性が高い、コナラ林(東日本)、コナラ林(西日本)、アカマツ林、シイ・カシ萌芽林の4ブロックを対象地域とし、2次林の保全管理に対する地域の意向を踏まえて各ブロックからそれぞれ1地域ずつ里地里山保全再生モデル事業の実施地区を選定。

里地里山保全再生モデル事業の実施地区



事業実施地域の特徴

地域名	ブロック名	地域の特徴
神奈川西部地域 (秦野市)	コナラ林 (東日本)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏のベッドタウンでありながら、雑木林、水田、畑が多く残されており、水辺環境にも恵まれ生物多様性が豊か。 ・ 里山はクヌギ・コナラの群落が多いが里山と農地の境で竹の進入がみられる。
京都北部・福井地域 (宮津市、越前市等)	コナラ林 (西日本)	<p>(京都北部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺に天橋立などの観光資源があり、山間部にはコナラ、シデ等のまとまった広葉樹林が存在し、山、集落、水田等が一体となった典型的な里山景観がみられる。 <p>(福井地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主にコナラ等の広葉樹林に覆われており、湧水によって非農期でも水田で湿地が形成され、アベサンショウウオなど多様な希少種が生息。
兵庫南部地域 (三田市等)	アカマツ林	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大都市のベッドタウンで、里山は主にアカマツ林が特徴的だが一部コナラ林もみられる。 ・ 事業地区内には湿原が点在し、ハッコウトンボ、サギソウ等が生息。
熊本南部地域 (氷川町)	シイ・カシ萌芽林	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の森林は主にスギ・ヒノキの人工林で、一部シイ・カシの天然林がみられる。天然林には竹林の侵入がみられている。

里地里山保全モデル事業でのこれまでの取組

里地里山保全再生モデル事業で 実施地域に地域懇談会を設置

【地域懇談会の内容】

自然環境・地域課題の詳細把握
課題等に対する対応検討
里地里山保全の方向性
保全再生活動内容の検討

→ 地域の里地里山保全再生の計画である
「地域戦略」を策定

地域戦略に基づく具体的な保全活動の実践

地域の自主的な取組や里山エリア再生交付金等
関係各省の事業による支援

里地里山環境への働きかけ

竹林拡大防止のための管理活動やビオトープの創出等
の耕作放棄地の再整備、バッファゾーン創出等の鳥獣
害対策への対応等

里地里山保全再生の体制づくり

里地里山保全再生のための協議会設立等による行政、N
P O、ボランティアの組織化、森林環境教育、研修の拠点
整備等の環境教育の推進等

普及啓発・情報発信の推進

保全再生活動への参加の呼びかけ、シンポジウムの開催
等

モデル事業の成果

里地里山保全管理の重要性の確認

- ・ ヤマビル撲滅対策の実施やほ場の周囲の防シカ柵の設置
などの実践活動を通じた体験の共有。
多様な主体の参画の必要性の認識
- ・ 地域戦略の策定を通じた、保全管理活動の内容、活動主
体の役割分担の明確化と協働の体制づくり。
- ・ 地域住民、N P Oを主体とした地域による保全管理活動
の重要性。
里地里山の管理や利用の実践的手法の発掘
- ・ 鉄道会社と連携したP R活動、大学での研究と連携した
保全再生活動 等

今後の課題

モデル事業としての課題

- ・ モデル事業の成果の全国への効果的な情報発信

モデル事業後の全体的な課題

国土の中での里地里山の将来像の提示

長期的に見た国土のあり方として、生物多様性の観点から人手
をかけて維持すべき里地里山の考え方を示すことについて検討

里地里山を管理する担い手の確保

民間企業を含めた多様な主体の参画のほか、ボランティアにつ
いては、人材の掘り起こし、技術向上のための研修体制の確立等
が必要

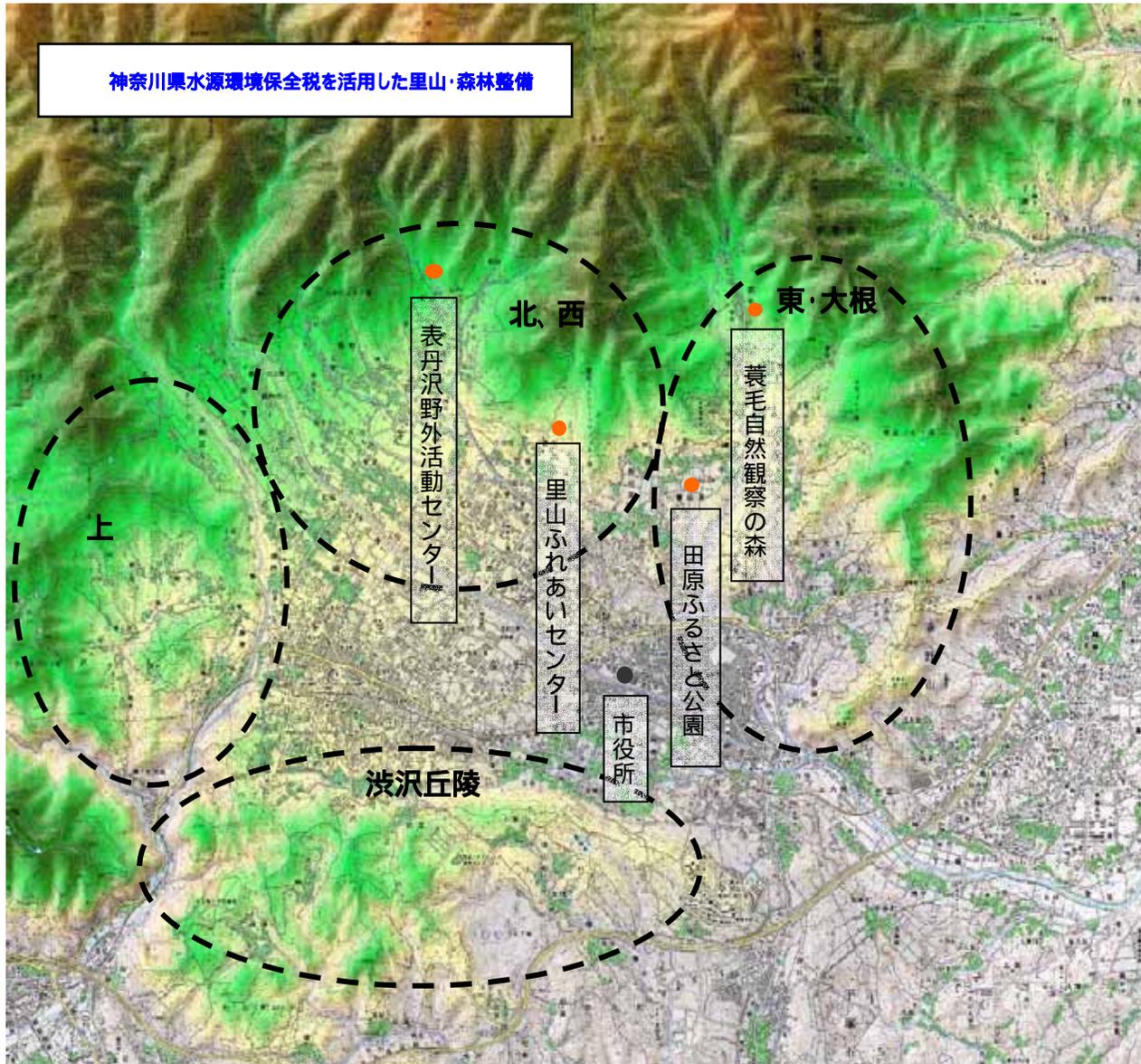
持続的な活動に必要な経済性の確保

農林業の振興に加え、エコツーリズムやバイオマスなど、新た
な形での資源活用策の検討

里地里山の生物多様性の状況等に関するデータ整備

二次林の植生変化、希少種の生息状況、ササ・タケの侵入状況
等を迅速に把握する手法について検討

(参考) 里地里山保全モデル事業での活動内容 (神奈川県秦野地域)



神奈川県水源環境保全税を活用した里山・森林整備

[市全体] 里地里山の保全再生による地域社会の発展 - 登録制度・研修制度・情報発信・水源保全・普及啓発活動・学校教育や生涯学習との連携 -

- 登録制度 (ボランティア、フィールドリーダー、活動フィールド)
- 研修制度 (ボランティア、フィールドリーダー、ステップアップ)
- バイオマスの検討
- はだの版里山林整備指針の策定
- 里山保全管理手法の検討
- 地域内外との情報交流
- 情報発信
- 推進体制の構築
- 学校教育・生涯学習との連携
- 市民全体への普及啓発活動の実施
- 荒廃農地対策の実施
- 水源の保全
- 谷戸の保全

[上エリア] 水田湿地の環境と生態系の保全再生 - 生き物の星づくり -

- 水田・湿地環境の再生
- 四十八瀬川周辺の水田活用
- 里山・竹林整備と仕組みづくり
- 獣害対策としての里山整備
- 生き物観察による啓発と交流
- 都市住民の里地里山管理体験

[渋沢丘陵エリア] 多様な主体による二次林整備と交流

- 二次林の多様な整備モデルづくり
- 散策道の延長と周辺整備の検討
- 小学校の里地里山環境学習の推進
- 多様な主体の参画と協働

[北・西エリア] 里山保全再生拠点

- 研修拠点、ヤマビル・獣害対策 -
- ヤマビル・獣害対策としての里山整備
- バイオマスの検討
- 表丹沢野外活動センターの活用
- 里山ふれあいセンターの活用
- 水源の保全
- 保全活用研修の実施
- 情報発信機能の充実

[東・大根エリア] 農家、集落を軸とする保全再生

- 里山支援モデル事業による里山づくり
- 集落周辺の藪の整備 (獣害、荒廃農地対策)
- 表丹沢自然観察の森の活用
- 都市住民が関わった荒廃農地の解消
- 解消後の農地利用
- 観光農園の拡大と活用の検討
- 田原ふるさと公園の活用
- 歴史文化施設の活用

凡例 里山 水、里地 人、情報
 平成18年度に取り組みを開始した
 平成18年度時点で一部でも取り組みを行っている

(参考) 里地里山保全モデル事業での活動スケジュール (神奈川県秦野地域)

	平成18年度		平成19年度		平成20年度	平成21年度	平成22年度
水源保全			神奈川県水源環境保全税開始 水源環境保全税を活用した森林・里山整備 [はだの森づくり1世紀構想]		40ha新規整備 → 維持保全 40ha新規整備	→ 維持保全 40ha新規整備	→ 維持保全 40ha新規整備
里山保全	諸団体による里山整備の継続		秦野市による団体助成 → 水源環境保全税を財源とした団体助成 農村景観・自然環境保全パイロット事業による活動助成				
	普及啓発・担い手育成		ボランティア養成研修 里山の日 里山整備の手引き作成				
	里山資源の活用		堆肥場造成 → 落ち葉堆肥づくり・堆肥の利用 市内里山からバイオマス資源を野外センターのチップボイラー燃料として活用				
表丹沢 野外活動センター			オープン 表丹沢野外活動センターの活用		活動プログラムにおける地元の人材や農産物等の活用		
生き物の里	生き物の里の保全整備		指定地の保全活動の推進 → 指定地の拡充(全体で10箇所程度)、保全				
農地等	はだの都市農業支援センター		地域営農の活性化(モデル事業、体制づくり)、担い手の育成・確保(市民農業塾、市民グループ支援) 遊休農地活用、獣害対策、ブランド化、観光農業の推進				
	荒廃農地の解消と活用、市民農園の拡充						
体制の整備	(仮称)はだの里地里山モデル事業推進協議会		はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会設立 上地区里地里山保全再生モデル事業連絡協議会設立				
全国植樹祭	招致活動						